

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2020年度(令和2年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2020

(文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。シンポジウム(全国コミュニティシネマ会議)、上映者のためのワークショップ、「子ども(若年層)と映画」プログラム、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。2020年度も、上映を取り巻く状況の変化や動向に関する情報を提供・共有するためのシンポジウムやワークショップ、地域の上映者を育成するための、より具体的なワークショップ(実習)や講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う新たな人材を育成し、ネットワークの構築を進めていく。

(1) 全国コミュニティシネマ会議の開催

2020年11月または12月を予定

会場: 東京を予定

テーマ(案):

SAVE the Cinema コロナ禍の中の映画上映

報告とディスカッション SAVE the CINEMA報告と上映者の報告+ディスカッション

海外からの参加 (Zoom等での参加) も検討。

(2) ディスカッション&ワークショップ

- 若い作り手のための映輸入門講座

実施期間: 2020年9月/ 実施会場: 東京(映画美学校)

映画館での公開を目指す若い映画の作り手に向けて、映画館での公開や地方での上映に必要な基礎知識を学ぶことができるカリキュラムを提供する。

講座内容例 90分1コマ×4回 短期集中講座

講義: 映画の完成から上映に至るまで スケジュールと予算

鼎談: ミニシアターの支配人に聴く

講義: 地域での上映のあり方1: 大都市 / 地域での上映のあり方2: 中小都市

実習: 自作をプレゼンテーションする

講師・登壇者: 映画上映専門家、映画製作者等 7~8名

参加者(育成対象者): 若い映画製作者(学生を含む)20人程度

- デジタルシネマワークショップ

実施期間: 2020年12月 実施会場: 東京(予定)(原則会員限定)。

上映者が抱える「デジタルシネマ」に関わる様々な疑問や課題について話し合い、情報共有のためのネットワークをつくる。

実施期間: 2020年12月 **実施会場:** 東京(予定)

- コミュニティシネマのコンプライアンス・ガバナンス講座

実施期間: 2020年7~2021年3月 実施会場: 東京ほか(原則会員限定)

ミニシアター、上映団体が考えねばならないコンプライアンスとは何か。必要なガバナンスとは何か。

専門家の話を聞き、必要な文書を整える。(オンライン講座4回+訪問指導有)

- コミュニティシネマ・ネットワーク事業の開拓

実施期間: 2020年12月、2021年1月予定 実施会場: 横浜市ジャック&ベティ、尾道市シネマ尾道

内容: 相互の街のロケ映画等を上映。制作者、各館の支配人のトークイベントを開催。

地域のミニシアターやコミュニティシネマが協働して、地域の市民・観客が参加できる地域交流・上映企画を立案、それぞれの映画館で実施し、新しい観客の開拓を目指す。第1回目は、横浜市と尾道市で地域に密着した映画館として支持を集める「シネマ・ジャック&ベティ」と「シネマ尾道」で、「共同企画～横浜と尾道が映画で繋がる2日間(仮)」を実施する。

内容: 相互の街のロケ映画等を上映。制作者、各館の支配人のトークイベントを開催。

-アートマネージメントワークショップ イン 東北

実施期間: 2020年秋～2021年春(予定) **実施地域:** 岩手県(釜石市、紫波町)、福島県(南相馬市)

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。今回は、釜石市で、前年度制作を進めた「釜石の映画館地図」(仮)を完成させるとともに、釜石市周辺で上映活動を行う人たちが共同で完成披露上映会を企画・開催する。また、岩手県内陸部の紫波町、南相馬市小高区にできた「LaMaMaODAKA」での上映事業を支援する。

(3) 「子ども(若年層)と映画」プログラム

子どもたちは、日常的に膨大な量の映像に接している。しかし、大きなスクリーンを通して多様な映画に触れる機会は非常に限られている。「こどもと映画プログラム」では、こども(中高校生を含む)を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すことを目指して事業を実施する。

-「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法(こども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々)を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングや実施会場相互の見学等を定期的に行い、ゆるやかなネットワークをつくる。

また、今年度は、コロナ禍の中でも、映画館やシネマテークと子どもたちのつながりをつくるためのインターネットを活用した試みも話し合い、実現する。

ミーティングは隔月開催。東京(及びその周辺)(原則会員限定)。

- **上映作品リストの作成** 子ども向け上映会のための作品・プログラムリストを策定する。

- **実践上映会・オンラインワークショップ等** 川崎市、鎌倉市ほか5～6会場を予定

(4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるための「Fシネマ・プロジェクト」。映画館でのフィルム上映が減少する一方で、フィルムの保存や映写技術の継承に対する関心は高まりを見せており、このプロジェクトの継続が求められている。今年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施する。上映者・映写技師育成のためのワークショップは来年度以降に実施する予定。

-Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営

-フィルム映写ワークショップ

フィルムに触れる機会が減り続ける上映者・映写技師育成のためのワークショップ。

フィルム映写を定期的に行っている技師を中心とする中級クラスと未経験者・映写初級者のための初級クラスを開講する予定。(原則会員限定)。…2020年度は計画の立案を行う。

-フィルム上映会の実践

実施期間: 2020年12月。 **実施地域:** 東京(予定)

映写技師の育成とフィルム文化の魅力と重要性を広く一般に伝えるために、全国コミュニティシネマ会議に合わせてイベント型のフィルム上映会を開催する。

[2]「映画上映活動年鑑2020」の作成

(文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

映画の「上映」は、「興行」という商業行為であると同時に文化事業、公共事業でもある。

本年鑑では、幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、「興行」(及び配給)に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに映画祭や公共上映等の新しい調査データを加え、さらに地域・都道府県別に詳細な上映環境に関するデータを付して、現在の映画上映の状況を提示し、分析する。

文化事業、コミュニティ事業という視点から上映の状況を提示し、分析することにより、国あるいは地方自治体の、上映活動に対する関心を高め、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指している。

「映画上映活動年鑑2020」内容(予定)

I 映画館での上映

- (1)概況
- (2)公開本数・公開作品
- (3)諸外国との比較
- (4)都道府県別概況

II 公共上映

- [1]全国映画祭リスト
- [2]公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など
- [3]上映事業を行っている公共ホールなど
- [4]地域の主要な自主上映団体一覧

III 特別調査

SAVE the Cinema コロナ禍の映画上映

IV 世界の映画上映事情

論考:海外のSave the Cinema

V 資料

- (1)都道府県別上映施設一覧
- (2)上映に関わる用語集

※全国コミュニティシネマ会議2020の採録も掲載予定

2. 自主事業

[1] SAVE the CINEMAプロジェクト+We Need Culture

4月初め、新型コロナウイルスの影響が拡大する中で、ミニシアターを救うためにできることを考え実現するためのプロジェクト「SAVE the CINEMAプロジェクト」がスタート。コミュニティシネマセンターから、田井肇、北條誠人、志尾睦子、松本正道、岩崎ゆう子が呼びかけ人として参加している。映画監督の深田晃司・濱口竜介らが発起人となって立ち上げられたクラウドファンディング「ミニシアター・エイド (Mini-Theater AID) 基金」とも連携し、関連省庁や国に要望書を提出し、要望を実現するためのロビー活動等を展開している。全国の映画館が休館を余儀なくされる中、ミニシアター・エイド基金には日本のクラウドファンディング史上最速・最高額を記録する 3 億3000 万円が寄せられ、SAVE the CINEMAには9万人を越える署名が集まった。5月以降は、小劇場(演劇)、ライブハウス関係者とともに「We Need Culture」アクションを展開。7月18日にSAVE the CINEMAの活動報告会を開催。今後も活動を継続する予定。

[2] シネマテーク・プロジェクト /Fシネマ・プロジェクト関連企画

(1) こども映画館

- 「スクリーンでみる日本アニメーション！」(国立映画アーカイブ共同事業)

巡回予定: 川崎市アートセンター、鎌倉市川喜多映画記念館、松本シネマセレクト、ほとり座(富山)等
5~6会場で実施予定。

映画をみて、日本のアニメーション映画の歴史や、様々なアニメーションの技法に触れ、アニメーション史を彩るつくり手たちを知り、アニメーションを体験することができる、子どもたちにも、大人にも楽しんでもらえるプログラム「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」を、国立映画アーカイブの協力を得て、全国に巡回する。

また、今年度は、コロナ禍の中でも、映画館やシネマテークと子どもたちのつながりをつくるためのインターネットを活用した試みも実施する。

-新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション！」に続くプログラムを策定する。

→「子ども(若年層)と映画」プログラムとの連動

-ウェブサイト「こども映画館」の運営・更新

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.1 & vol.2 の巡回

(アンスティチュ・フランセ共同事業)

アンスティチュ・フランセが、フランスの映画メディア(新聞、雑誌、テレビ局、ウェブ媒体…)、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画 を選りすぐり、紹介する特集「映画/批評月間~フランス映画の現在をめぐって~」。コミュニティシネマセンターでは、「リベラシオン」の映画批評家、同紙の文化欄チームエディターのジュリアン・ジェステール氏によるセレクション (vol.1) から11作品、ARTE France Cinémaディレクターのオリヴィエ・ペール氏によるセレクション (vol.2) から10作品を選び、全国に巡回する。

Vol.1

『ポール・サンチェスが戻ってきた!』パトリア・マズイ(2018)

『20年後の私も美しい』ソフィー・フィリエール(2018)

『マイ・レボリューション』ジュディット・デヴィス(2019)

『ソフィア・アンティボリス』ヴィルジル・ヴェルニエ(2018)

『ワイルド・ボーイズ』ベルトラン・マンディコ (2018)

『僕らプロヴァンシアル』ジャン=ポール・シヴェラック(2018)

『宝島』ギヨーム・ブラック(2018)

『ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像』
ファビアン・アジェージュ、ギヨーム・ナミュール、ヴァンサン・アセール(2017)
ギイ・ジル 特集

『海辺の恋』(1963) 『オー・パン・クペ』(1967) 『地上の輝き』(1969)

Vol.2(予定)

『アリスと市長』ニコラ・パリゼール(2019)

『君は愛にふさわしい』アフシア・エルジ(2019)

『リベルテ』アルベール・セラ(2019)

『シノニムズ』ナダヴ・ラピド(2018)

『見えない太陽』アンドレ・テシネ(2019)

『ティップ・トップ ふたりは最高』セルジュ・ボゾン(2013)

『マダム・ハイド』セルジュ・ボゾン (2017)

ジャン＝ピエール・モッキー特集

『今晚おひま?』(1959) 『言い知れぬ恐怖の町』(1964) 『ソロ』(1970)

巡回予定: 広島市映像文化ライブラリー(6月)、横浜シネマジャック&ベティ(秋～冬)、ユーロスペース(秋～冬)、高崎映画祭(3～4月)他。

(2) ジョージア映画祭

昨年度から巡回している「ジョージア [グルジア] 映画祭・コーカサスの風」を継続する。

巡回予定: シネマ5(大分) 他。

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行う。

[4] シネマエール東北(ポケモン新作上映会)の実施協力

岩手県、宮城県、福島県で実施するポケモン新作上映会の実施に協力する。

[5] その他の事業

(1) 会員相互割引サービス

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

(2) デジタルシステムの更新に関する情報提供・情報共有

(3) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

会員制度のさらなる充実を期し、会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討する。

(4) 小規模映画館・コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動